



## スピーカー: メアリー・ディクソン / 劇作家、風下住民

賞受賞歴のある作家・劇作家。甲状腺がんを克服した米国ユタ州ソルトレイクシティ出身の風下住民。核実験被害者の擁護活動家として国際的に知られている。米国や日本の会議、シンポジウム、フォーラムなどで、核兵器の人的被害について広く執筆、講演を行っている。自身の体験や歴史的記録を融合した演劇「Exposed (暴露)」は米国全土の大学や会場で上演され、高い評価を受けた。生涯にわたる核実験被害者の擁護活動が評価され、Alliance for Nuclear Accountabilityから表彰を受賞。

---

メアリー・ディクソンです。一人の風下住民で被爆者です。

何万人ものアメリカ人同様、核実験が行われる中、放射性降下物をもたらす雲の下で育ちました。近所の酪農場で作られた牛乳を飲み、庭で取れた新鮮な野菜を食べ、アイスクリームに見立てて雪に砂糖を混ぜ、雨でできた水溜りで遊びました。ユタ州の平穏な地域、ソルトレイクシティでのことです。

ほんの子どもでしたから、沈黙の毒が体の中を巡っているなんて知る由もありませんでした。信頼していた政府が危険はないと繰り返し断言し、おかしくなったガイガーカウンター(線量計)の報告を気にしないようにとパンフレットを配っていました。学校では共産主義者の侵略を警告する映画を見てゲームのように「しゃがんで隠れる」避難訓練をしました。激しくなる冷戦や近隣のネバダ州で定期的に爆発している核爆弾のことなど考えもしませんでした。

1951年から1992年の間にアメリカ政府は、大気圏内で100個の核爆弾を、地下で828個の核爆弾を爆発させました。広島や長崎を破壊した爆弾よりもはるかに強力なものばかりのこれらの爆発がもたらした放射性降下物を風が運び、ネバダ州の実験場から何百、何千マイルも離れた風下にいた無数の人々に致命的なレベルの放射能を浴びせました。

一番私を苦しめた爆発は「セダン」という爆発です。1962年7月6日の爆発当時、私は7歳になったばかりでした。地下で爆発したにも関わらず、1回の実験で放射性降下物が高さ16,000フィートまで立ち上り、1200万トンもの放射性物質を含む土を動かしくレーターを残しました。その噴煙は私の住むソルトレイクシティやその周辺、離れた所にまで降り注ぎました。

20代の時に甲状腺がんと診断され甲状腺摘出手術を受け、その後、放射線治療を受けました。毎朝医師が病院のドアを開け線量計を私に向けて私の熱を測りました。病院のドアとプレスレットには放射能マークがありました。私は放射性物質でした。退院した時は服を燃やされ、1年間は妊婦に近づかず妊娠しようとしなないように言われました。さらに手術をし、私は子どもを持つことができなくなりました。

大人になって姉と私は子供の頃の友人や近所の人で癌や腫瘍、自己免疫疾患を患っている人たちのリストを作り始めました。リストには、子どもの頃に住んでいた地域の5ブロックの54人が入っていました。

あまりにも多くの同級生が亡くなりました。一人は8歳の時に脳腫瘍で亡くなりました。なぜ頭を剃って学校に来るのか疑問に思っていた事を覚えています。その4週間後、その子の4歳の弟が精巣がんで亡くなりました。もう一人の友人は骨癌で16歳の時に、他の人たちは脳腫瘍で亡くなりました。近所の友人が「40歳まで生きられてよかった」と言っていたのも無理ありません。

私は姉の名前をこのリストに加えました。ほんの46歳で亡くなりました。3人の幼い子供を残して。そして今は妹が癌と闘っています。一番下の妹は自己免疫疾患の治療を受けています。

最も親しくしていたユタ州の風下住民の中で、生きているのは私だけです。

ある人が人生の最期の時に電話をかけてきたとき、絶望しながら聞いていました。涙ながらに「死ぬのを手伝って」と懇願したのです。それは悲痛で不可能な願いでした。もう一人が亡くなる前に言いました。「あなたはこのために戦い続けなければならない。他のみんなはあまりにも病状が重いから」と。

私は彼ら全員に対して、この仕事に大きな責任を感じています。だから私は数十年かけて核兵器実験による人間の犠牲について研究し、執筆し、講演してきたのです。何年にもわたり数え切れないほどの人が、悲惨な体験を話してくれました。

地上実験中に3人の子供を白血病で失った女性の大人になった3人の子どもたちが癌と闘っています。夫をがんで亡くした女性は5歳の息子が骨癌と診断され手術から目を覚まし「ママ、僕の足はどこ？」と聞いた時、心が打ち砕かれました。心が痛む話を何時間でも続けることができます、放射能の影響を受けた無防備なアメリカ人の悲痛な話を。

バーバラ・ローズ・ジョンストン「半分の命と半分の真実」の著者は、次のように書いています：  
軍拡競争は核戦争を防げなかった、それが核戦争だったのだ

亡くなった友人が言いました。「我々は冷戦の犠牲者だ。入隊しなかっただけで誰も我々の棺の上で旗を畳むこともない」

冷戦には犠牲者がいて、私たちや地球上の私たちのような多くの人々はその犠牲者です。私たちはこれまでも、今も苦しみ続けています。私たちは、病人を慰め死者を埋葬し、悼み、痛みやしこりがあるたびにまた病気になったのではないかと心配してきました。過去の核がもたらした人的被害の規模を知るアメリカ人はほとんどいません。いったい何人の人が被害を被ったかわかりませんがこれまでに認識されてきた数よりもはるかに多いことは確かです。悲しいことに、核兵器の被害者のほとんどは、自分が被害者であることを知りません。

自分の子供の写真を財布に入れて持ち歩く人がいる中、私はこの地図を持ち歩いています。大気圏での核実験で発生した放射性物質がどこに行ったかを示す地図です。この地図を作ったのは『雲の下で、数十年の核実験』の著者リチャード・ミラーで政府のデータを分析して作りました。この地図を見ると人々は唖然とします。放射降下物は地図上の任意境界線を見ません。郡や州の境界線のLEDシールドでは止められません。ジェット気流に乗って国中に運ばれ雨や雪となって地上に降り落ち、食物連鎖に入り込み、私たちの体の中に入ってきます。アメリカ中西部にある私の故郷では、このように測定され、2,000マイル以上離れたニューヨーク州のアルバニーでも測定されました。

米国国立がん研究所の研究によると当時アメリカに住んでいたほぼ全員が何らかの放射性ヨウ素の投与を受けており、放射性降下物との関連は甲状腺がんだけでも212,000件に上ると推定されています。これは1つの放射性同位体と放射性降下物が関連する癌に過ぎません。928回の核爆発による放射線は無くなりません。研究者は1960年代に採取された乳歯からカルシウムに似た、骨や歯に吸収されるストロンチウム90を今も見つけています。被ばくから病気になるまでの時間差が大きいので20年、30年、40年と発症するまで時間がかかる癌もあります。人々は未だに病気になっています。癌が再発しているのです。健康上の問題も出てきています。遺伝子の損傷は、新しい世代にも影響を与えます。

私たちは政府を信頼していた愛国心のあるアメリカ人でしたが、その政府は私たちを裏切り、嘘をついただけでなくさらに酷いことに、私たちを消耗品と考えていました。ネバダ州での実験の初期に行われた原子力委員会の機密を解除された議事録はドラマの見せ場のようでした。一人の委員が「人々や家畜が病気になったり死んだりしている」と嘆くと、別の委員は「人々は現実と共に生きることを学ばなければならない。放射性降下物は現実なのだ」と非難しました。実験の邪魔をするものはありません。その委員は公開情報の賢明な取り扱いを呼びかけました。つまり嘘をつくことを。



故意に自国民を傷つける政府の道徳的責任とは何でしょうか？

1990年、米国議会はついに、極めて限定的な放射線被ばく者補償法を可決しました。略して「RECA」です。膨大な量のテストを行っているため請求者の数はアメリカの大地に降り注いだ放射性降下物による被害者のほんの一部に過ぎません。この法案が可決されたときジョージ・H・W・ブッシュ大統領はこれは部分的な賠償にすぎないと認めました。結局のところ、人の健康や命にどんな値段をつけることができるでしょうか？姉や他の人たちを取り戻せるものはありません。

私たちの家族やコミュニティは、莫大な代償を払い、今も払い続けています。議会の動きがなければRECAは今年の7月に失効します。米国議会に提出された超党派の法案はRECAを15年延長し、西部の7つの州とグアムに適用範囲を広げるものです。何十年も苦しみ医療費の支払いに追われている私たちには、文字通り、時間がありません。既に多くの人々が亡くなっています。この法案はまだまだ包括的ではありませんが大幅に遅れていた正義と償いのための一歩です。議会が正しいことをしてくれることを願っています。たとえ小さすぎても遅すぎてもそして、それと同じくらい重要なことは、世界各国の核兵器の悲惨さを身をもって知っている。私たちが連帯して証人となり過去の過ちを二度と繰り返さないことを求めなければなりません。私たちの体験を話すことは非常に辛いことです。しかし、一緒に死なせることはできません。核兵器を禁止するためには私たちの声を結集することが絶対に必要です。私たちの個人的な悲劇ほど強力な動機となるものはありません。

私の癌、姉の死、そして他の多くの人々の死が核の脅威をなくそうという大きな動機になりました。

私たちの言葉には力があります。私が聞く物語は、私を感動させ、鼓舞し、同時に私を落胆させ、不安にさせます。私たちは強力な軍産複合体の支配を断ち切らなければなりません。

私たちは政府が核兵器の狂気のために二度と罪のない人間を犠牲にしないように全力を尽くさなければなりません。

ありがとうございました。

おことわり

この文章の責任は証言動画の文字起こしを行ったピースポートにあります。オリジナルの証言と完全に一致するとは限りません。オリジナルの証言は2021年12月3日(日本時間)に行われた世界核被害者フォーラム2021にてオンラインで上映されました。このフォーラムはピースポート主催、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)協力で開催され、世界5大陸から30名を超える参加者がそれぞれの核の被害を1000人を超える視聴者に訴えました。証言やパネルディスカッションの様子はYouTubeチャンネルまたはこちらのウェブサイトより閲覧可能です。<https://nuclearsurvivors.org>